

ドローンと AI を活用した保険金支払いに関する取組み ～ドローン撮影画像の AI 解析により損害調査・修理費の算出を迅速化～

東京海上日動火災保険株式会社(本社：東京都千代田区、取締役社長：広瀬 伸一、以下「当社」)は、Airobotics co.,Ltd(本社：イスラエル、社長：ラン・クラウド、以下「Airobotics 社」)と連携し、ドローンで撮影した画像を人工知能(AI)で解析することで、損害調査から修理費の算出までを行う取組みを開始します。

主に工場や倉庫で発生した被害に対して実施し、お客様への迅速な保険金のお支払いに繋がっていきます。

1. 背景

近年の自然災害の大規模化や多発化等により、個人の住宅や家屋だけではなく、企業のお客様が所有・管理する工場や倉庫でも、大きな被害が発生しています。

自然災害等により、工場や倉庫が損害を被った場合、被害の状況を確認する対応においては、保険会社の査定担当者や損害鑑定人が現地で立会調査を実施し、被害の状況の調査結果、現場の写真、被害額の見積書等を元に、支払う保険金額を算定・精査し、保険金をお支払いします。

工場や倉庫では、特に屋根や屋上の被害を確認する際に、担当者の危険を伴うことから、詳しい損害調査が容易でない場合があります。また、大規模な物件になると、査定担当者が全ての損傷箇所を調査するまでに一定の時間を要していました。

上記の理由から、当社はドローンのようなテクノロジーを活用し、正確かつ迅速に損害調査から修理費の算出を行い、お客様に保険金をお支払する取組みを検討してきました。

2. 取組みの概要・効果

当社はドローンによる空撮技術や、画像の AI 解析に強みを持つ Airobotics 社と連携し、ドローンで撮影した複数の画像を人工知能(AI)で解析することで、迅速に損害調査から修理費の算出までを行う取組みを2019年6月より開始します。

Airobotics 社が所有するドローンで撮影した工場や倉庫等の空撮画像を繋ぎ合わせて、正確に損害箇所や損害状況が把握できる画像データを作成します。作成した画像データを AI が瞬時に解析し、自動的に具体的な損傷状況や損害額を迅速に算出します。AI には、お客様からの同意に基づき撮影した大量の画像データ、及び損害鑑定人等による画像診断結果を学習させることで、精度を向上させることができます。

<ご参考：Airobotics 社のドローンによる損害調査イメージ>



3. 期待される効果と今後について

ドローンによる空撮画像を AI が自動で解析し損害額の算出までを行うことで、被害に遭われたお客様からお見積り等を受領し、当社の損害鑑定人が報告書を作成する工程を大幅に効率化することができます。鑑定人による調査で、通常 1 ヶ月程度を要する保険金のお支払い期間を大幅に短縮し、被害に遭われたお客様に、迅速に保険金をお支払いできます。

また、損害鑑定人の繁忙度が増すことが想定される広域災害の発生時でも、ドローンによる損害調査を導入することで、より迅速かつ多くのお客様の物件に損害調査を実施することができます。

本取組みは、主に企業が所有・管理する工場や倉庫等で発生した損害に対して実施していきますが、今後、個人の住宅・家屋などの被害に対しても応用できるかを検討していきます。

当社は引き続き、お客様に寄り添った損害サービス対応を行っていくと共に、最先端のテクノロジーを活用することで、更なるお客様満足度の向上に向けて取り組んで参ります。

<Airobotics 社の概要>

本社所在地	イスラエル テルアビブ
代表	ラン・クラウド
設立年	2014 年
主な事業内容	完全自律ドローンおよび AI データ解析ソフトウェアの研究開発と販売
従業員数	約 150 名

以上